あ　と　が　き

委員長を仰せつかって３年目となる。第47号（相生町）・第48号（佐那河内村）については、何とか結団式でお渡しすることができたが、今年はどうだろうか。またまた時間との勝負である。本務の仕事も山のようにたまっているが、執筆者に無理をお願いしている手前、やはりこの編集後記だけは書き上げねばなるまい。

「編集の仕事は大変ですね」と言われることがある。確かに、裏方として、時には執筆者の敵役？としての役回りであるが、シンドイことばかりではない。専門外の原稿を読むことで、新たな視点や調査方法を知ることができるし、切れ味違った分析の一端を垣間見る「楽しみ」もある。またそれゆえに、投稿原稿を第三者の立場から客観的に読むことができる。多分野の研究者による調査成果の総合学術報告書であるという点で、学術専門誌とは性格の異なる阿波学会紀要の編集にあたっては、こうした視点からの原稿査読も有効であると考えている。

しかしながら、時として、執筆者との間に大きな摩擦が生じることもある。紀要編集委員会では、そうした事態を避けるために、調査の目的・方法が明確か、調査結果の裏付けとなる客観的なデータが示されているか、また記述内容が論理的で正確か、出典が適宜明記されているか、などについて慎重に査読を行っている。こうした編集作業についての理解を得るべく、第48号には「阿波学会紀要原稿作成・提出規定」も掲載した。会員諸氏におかれては、こうした編集方針をよくご理解いただき、今後とも執筆協力をお願いするものである。

なお、今回の三野町総合学術調査報告書で紀要は第49号を数える。阿波学会では現在、県立図書館の協力のもとに、50周年記念事業の一つとして紀要バックナンバーのデジタル復刻に取り組んでいる。これは、阿波学会紀要に掲載された報告を全文テキスト・データ化することで、動植物の種目・学名や地名、人名、文化財、歴史資料などの各種データについての検索を可能にしようとするものである。完成すれば、これまで阿波学会紀要（旧：郷土研究発表会紀要）に掲載された学術標本や貴重資料に関するデータベースとしての利用が可能になり、今後の調査研究活動において大きな知的財産になることは言うまでもない。

しかしながら、50年という長い歴史の中では、学名が変更されたり、当時は使用が可能であった用語に対しても社会認識が変化してきている状況を踏まえると、改めてその内容をチェックする必要が生じてきた。そこで、阿波学会に参加している全学術団体から編集委員を選出してもらい、そうした任にあたる拡大編集委員会を組織することになった。拡大編集委員会のメンバーの半数は紀要編集委員でもあり、その点で関係各位には過重なご負担をおかけすることになる。ただし、この電子版阿波学会紀要は阿波学会会員相互の共有財産にもなることから、その作成にあたっては編集委員のみならず、各学術団体ならびに会員諸氏のご協力を切にお願いするものである。　（平井松午）

阿波学会編集委員会

委員長　平井　松午　　副委員長　石田　啓祐

委　員　石尾　和仁　　大川　健次　　小川　　誠　　田中　省造

田村　栄二　　伴　　恒信　　山本　　茂　　和田　賢次